

とうきょう すぐわくプログラム活動報告書

活動日時	令和7年5月22日 (水)
クラス名	ひつじぐみ (1歳児)

1.活動テーマ

《テーマ》

身近な物の色を発見しよう

《テーマ設定理由》

ブロックや絵本に載っている物を指して反応する姿が見られるため色分けのゲームとして活動を行い身の回りの物には色があるという発見に繋がると考えた。

2.活動スケジュール

1歳児6名で行う。

- 身の回りの様々な物を色別の箱に分けて入れていく。最後は一色をお題にした宝探しをする。

3.活動のために準備した素材や道具

- 箱（色分け用画用紙などを貼り付け色分けしやすくする）玩具（ブロック、カラーボール、カラー帽子、人形、カップなど）
- 絵本『どんないろがすき』

4.環境構成

ブロックやカラーボールなどは数を制限して行う。青色、赤色など子どもが理解しやすい色で行う

5.探究活動の実践

《活動内容》

「どんないろがすき」を導入として読み色に対する興味を引き出す。まず保育者がやって見せ活動への興味を高める。最初は青色、赤色と分かりやすい色で色分けし、慣れてきたら黄色、緑色と増やしていく。最後は一色選びその色をみんなで探す宝探しを行う。

《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり》

- 絵本『どんないろがすき』を見せるとすぐに興味を示し一緒に「あか」「あお」と色に反応し歌う姿が見られた。
- 何種類かの玩具と画用紙を貼ったカゴを見せ保育者がブロックの一つを赤、青などに入れて説明すると真剣に聞いていた。
- 遊びを始めると主に高月齢の子は赤や青のカゴに同じ色のブロックや積み木を入れる様子が見られた。低月齢の子もブロックや積み木を積み重ねて遊びつつも保育者がカゴを近づけ「どれと一緒にかな」と呼びかけると同じ色に入れようとする場面が何度もあった。
- ある程度行った後一度片付け再度カラー帽子を出して色分け遊びを行った。帽子という部分に反応して被ろうとする様子も見られたが、保育者のカゴを見せての問いかけに色に分けて入れる子もいた。
- 最後はカラーボールでも行った。色を分けるより投げて遊ぶ子が多く見られた。



6.振り返り

《振り返りによって得た保育者の気付き》

- 高月齢の子はしっかりと色を区別して入れることができており導入に際しても赤、青などには名前も認識していることが分かった。低月齢の子も何回か同じ色のカゴに入れようとする姿が見られた為、物によっては区別することができるということが分かった。
- 何度か色分けをしようとする姿は見られたものの、全体として上手く遊びに参加してもらうことができなかった。環境構成として玩具の入れ物も、分ける用のカゴも同じものを使ったことで、どのように分別して入れるのか分かりにくいものとなってしまった。また床に置き狭い空間で行ったことで集中しづらい環境になった。もっと玩具を少なく小分けにし机上遊びの様に設定すればまた違ったかもしれない。カラー球とカラー帽子は色分けとして難しい物になってしまったためブロックなどの玩具のみでよかった。保育者の説明が不十分であったためもう少しやって見せることが必要であった。